

久米 寿号

第116号
H24.7.1
久米地区
寿会連合会
文化部

久米地区寿会連合会の活動状況

- 四月一日 「久米寿号第一一五号」発行
- 四月五日 輝きクラブ周南徳山支部理事会
- 四月九日 久米地区寿連 単位会長会議
- 四月十三日 輝きクラブ周南定期総会
- 四月二十日 輝きクラブ周南徳山支部定期総会
- 四月二十三日 輝きクラブ周南徳山支部理事会
- 四月二十六日 久米地区寿連 役員会
- 四月二十六日 久米地区寿連 決算監査会
- 五月十八日 久米地区寿連定期総会・研修会
- 六月十一日 「久米寿号第一一六号」編集会議

☆新会員の紹介(敬称略)

- 平田 泰康 (北寿会)
- 平田美寿枝 (北寿会)
- 中野 正司 (東寿会)
- 中野 房子 (東寿会)
- 山根 妙子 (上南寿会)
- 山本 美好 (上南寿会)
- 山本ヤス子 (上南寿会)

☆会員の計報(敬称略)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます
大城信子(東寿会)
平成二十四年三月二十九日死去 享年七十二歳

久米地区寿会連合会役員

去る五月十八日久米公民館で開催された「久米地区寿連定期総会」で下記のとおり役員が選任されました。任期は会則により二年です。
役員一同、より良い会の運営を図って、皆様の期待に添えるよう一生懸命努力して参りたいと存じます。今後ともご支援・ご協力をよろしく願います。

役職名	氏名	所属
会長	大嶋隆太郎	北寿会(会長)
副会長	藤井 一字	上南寿会(会長)
幹事	井上 隆雄	田中院内寿会(会長)
理事	中嶋 捷紀	東寿会(会長)
理事	中尾 利博	中寿会(会長)
体育部長	井上 隆雄	田中院内寿会
女性部長	森川ユカエ	上南寿会
文化部長	井上 隆雄	田中院内寿会
盛年部長	柏 幾子	上南寿会
監事	久野 雅彦	北寿会
監事	石川 博子	上南寿会
顧問	原田 博	元会長「北寿会」

なお、今年度の久米地区寿連の正会員数は二〇五名です。(五月二十一日現在)

久米支所に赴任して

久米支所長・公民館長 松村 誠

平成二十四年度から久米支所にまいりました松村誠と申します。どうぞよろしく願いました。私は、昭和五十三年に徳山市役所に入所して三十数年が経過したところです。支所勤務は初めてですが、公民館活動などを通じ、毎日、新鮮な、かつ刺激の多い日々を過ごしています。

まず、久米にきてびっくりしたことは、地区の結びつきと、住民の方々のコミュニティ活動に対する意欲が大変に高いことです。また、公民館の利用率は極めて高く、老朽化した(?)施設をフルに利用していただき、大変ありがたいことです。「まず、箱モノを」という風潮に流されやすい時代ですが、全市的にも誇るべき達成だと思えます。

また、もう一つは、英語で言うところ、ネイティブ(もともとの住民)と新たに引き越された方が、相和し、楽しく活動されている姿を目の当たりにしたこと。先日、「郷土の歴史を語り・学ぶ会」に参加させていただき、会長さんをはじめ地区の歴史愛好家の方々に様々なことを教えていただきました。その際に、改めて伝統の継承や、脈々と続く歴史の流れを実感させてもらいながら、キイチゴをつまみ、久米温泉の源泉を尋ね、また、竹林で古墳を見失う、という得難い体験をさせていただきました。
今後とも、公民館活動等を通じ、明るく、楽しく、皆様の活潑な活動を支援させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

ジャガ芋の花

田中院内寿会 井上隆雄

高校の同級生の実話。彼は都会育ちの娘さんと結婚した。子供が小学一年生のとき転勤で地元に戻り、実家で両親と同居した。ある日、彼の嫁さん(以下A子さん)に義父が「A子さん、畑でジャガ芋をとってきてくれ」と頼んだ。Aさんは「ハイ」と返事して籠を持って畑に向かった。しばらくしてAさんが「お義父さん、ジャガ芋の花は咲いていたけど、まだなっていないませんでした」と言いながら戻ってきた。義父は「そうか」と言って、鎌を持って「付いておいで」と言いつつ畑に行きジャガ芋を土から掘り出して見せた。彼は、女房はジャガ芋がどの様に栽培されるぐらいは知っていると思っていたが……先が思い遣られると言っていた。三十年以上前に聞いた話である。

昨年六月小生の畑での出来ごと。薄紫と白色の花が咲いているのを見て「まあ、きれいだ。何の花ですか」と聞いた人がいた。「ジャガ芋の花」と教えると「初めて見た」と。「ジャガ芋はどこにあるか知っているか」と聞くと「知らない」と言うので、土の中から掘り出して見せた。



小さい頃、櫛ヶ浜は漁業、久米は農業と聞いていたが、久米は戦後住宅が増え、更に現在都市計画が進行中で田や畑が減っている。農産物生産地が消費地に変わること農産物音痴が益々増えることだろう。
ところで、ジャガ芋の花に実がなることを御存知ですか。写真に撮りましたので見て下さい。

弥為民愛の活動報生口

上南寿会 山田定子

桜花爛漫、四月九日、鹿野の花フェスタに合わせて花散策に出かける。この日は、麗らかな春日を浴びて大潮のマルタで会食。お庭の可憐な山野草を愛で、花いっぱい店内では、手作りの桜の花のケーキと、桜の花片を浮かべた紅茶をいただく。店主の思いやりの、ブローチ（蝶、蝶、蜻蛉）、つまり「蝶が蝶（ありがちよう）」を胸につけて、二所山田神社に向かう。平均年齢七十六歳の旭ヶ丘南向う三軒両隣の八名、女性ばかりのグループが、雅弥雅野（がやがや）と自然を満喫する。



外出前の宮本宮司さんが、我々一行に心を寄せて下さり、山野草の説明を懇切にしてくらう。

花にお（よ）う、腰をかがめて姥桜

（匂う、酔うの二つの意味）

帰路、米泉湖で車をとめる。雄大な自然、菜の花畑に、幼少時の想いを馳せ、ピンク色を湖面に映して今日一日の癒しの花ツアーは、終了。

四月二十三日、先日の花ツアーグループが、私の自宅でおしゃべり会をする。山野草や春の花ごよみ等の図鑑を持ち寄り、山野草で花のビンゴゲームを楽しむ。数十種類の花の名前を、それぞれ紙に書いてゲーム開始、賞品は手作りの小さい布草履、二人がゲットする。華麗なる、花のビンゴで、智恵袋

食べる、喋る、魅える、癒される、花をテーマの話は尽きることなく、いくつになっても、花を愛でる事は人生の至福である昨今……次回へ続く。

【智恵袋】

川柳・短歌

中尾利博

ほうほうとふくろうの声朝0時
ストーブは消えたが炬燵まだ残る

清花

苦虫も笑顔で手を振る選挙前
節電へ工夫凝らして丸く棲む
今日の愚痴日記の中へたたみ込む

楽老

嬭の背音は孫で今リュック
医療費は多い病患災で増え続け
薄命といわれた佳人長生きし



ジャガイモの花

石田敬枝

初夏の日ざしを浴びて白鷺は
水田の面（おも）にまう影映す
会うことのまれなる孫にさくらんぼ
今年もなると告げてやりたり

金婚力ン

上南寿会 斉藤恒郎

遂に金婚を迎えた。五十年かあ……よくもここまで保ったものだと思ふよ。本当に。
新婚時「可愛い君を食べてしまいたい」
今「あの時そうしておけば良かった」
という笑い話がある。いささか畫がたった二人だったから、こんなマッシュマロに蜜をかけたような幻想も、そして破綻？も生じなかった。生活に追われる頼りない親だから、世の中に出た子供たちはサッサと結婚し独立した。反面教師の成果だろう。今は孫たちも次々に社会に出ていく。両親を見送って、残るは鰥と白髪

の爺と婆だ。
結婚式はチョー地味だったから今度はキン・コン・カンと鐘でも鳴らすかと相も変わらぬ能天気な気分

の金婚感なのである。
さて、この「カン」だが、「甘」は有り得ないが、「憾」や「患」にならないよう心がけた。「鑑」などには到底及ぶものではないけれど、せめて「飲」のいくらかにでもありつけたいものかと願うものである。「漢」字遊びの「閑」話でした。

朝の散歩(三)

中寿会 高原佳子

今年は寒かったせいであの開化も遅く、満開の桜の花が入学式を祝ってくれました。

私の朝の散歩も三年目に入り、元気で歩ける事に感謝し始業式を迎えました。

昨年は途中から寿会の見守り隊の一員になり、胸を張って歩けるようになりました。ですから子供連連を守る為に、国道二号線まで行って帰っていたのを、途中の道が細く車の離合の激しい処では立ち止まって、一列で行く様に声をかけられるようになりました。

最後の班が登校し終ってから帰路につきます。その時の清々しい気分はたとえようありません。

六年生が卒業して、いつも元気に挨拶してくれていた子供連がなくなり少し淋しいのですが、又新しい班長のもとに可愛い一年生にも声をかけて、元気に登校してくれればと思っています。

これは余談ですが、昨年の十月に私の属しているサルビアバレーボールクラブが、沖縄県で開催された全国大会の七十歳以上の部（おふくの部）に、山口県家庭婦人バレーボール連盟の推薦で山口県代表として参加する事が出来ました。

六十歳以上のチームが六十八チーム、七十歳以上チームが二十四チーム参加し、二日間にわたって熱戦と親睦を深めてきました。久米からも寺本千津子さん、山本悦子さんと私の三人が選手として参加しました。



全国家庭婦人バレーボール大会おふくの部

七十歳を過ぎててもスポーツの出来る事は本当に幸せなことと思います。朝の散歩も永く元気でいられたらと思つて始めた事です。
なるべく人の世話にならないで一生を過ごせるように今日も楽しく歩いてきました。